

校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和元年 10月4日 (金) 朝日新聞

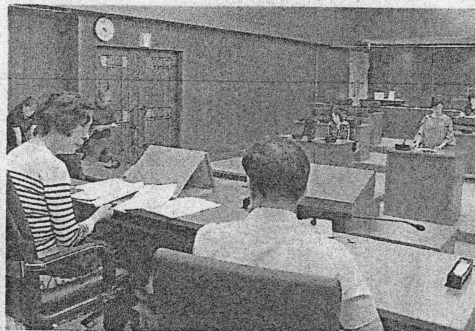
本校生徒がさつま町女性議会に参加し、朝日新聞に掲載されましたので紹介します。

女性議会 いざ物申す

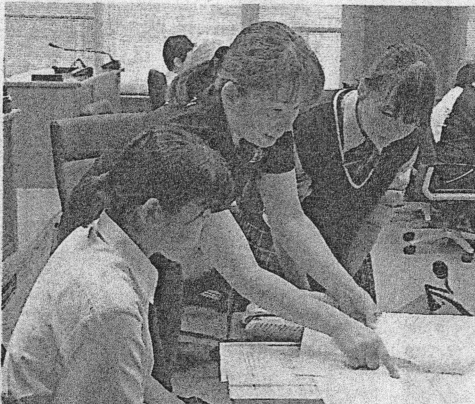
6月議会で一般質問に議員1人しか立たなかったさつま町で6日、危機感を募らせた女性たちによる初の「女性議会」が開かれる。町議会(定数16)は男性ばかり。「私たち女性が考えていることを訴えよう」と、町役場の協力も得ながら高校生を含む7人が町長ら執行部を相手に論戦を交わすという。

一般質問1人に危機感 さつま町

主催するのは、町内の女性グループ7団体でつくるさつま町女性団体連絡協議会。毎年1回「町長と語る会」を開くなど、女性の町政参画の場を設けてきた。6月の町議会定例会で、一般質問に立ったのが「常連」のベテラン議員1人と



女性議会のリハーサルで議長として議事進行の手順を確認する、さつま町女性団体連絡協議会の木下敬子会長(左)＝いずれも1日、さつま町宮之城屋地



女性議会に参加する薩摩中央高校の生徒2人。リハーサルで町職員(中央)の説明を受けるなどして本番に備えた

6日、高校生含む7人参加

いう事態に陥ったことを受け、女性による議会開催の機運が盛り上がった。当初は9月定例会前に開催する意見もあったが、一般質問に立つ議員が7人に復調したこともあって、定例会後になったという。

同協議会の木下敬子会長(71)は同町の「最後の女性議員」だ。2003年4月に合併前の薩摩町議選で当選、同町初の女性議員となり、合併後のさつま町でも連続3期議席を守った。女性議会の実現に向けては「町政に対して町民が何も言わないと思われるのは残念。私たちの元気があるところをみせたい」と訴えたという。

一方、町当局側にも町長のみが出席して語り合うだけでは意見や提案を十分くみ取れないとの見方があり、幹部職員がそろって参加する女性議会の開催に全面協力。「1日議員」の公募を手助けしたほか、地元

の薩摩中央高校にも声をかけて生徒2人の参加が実現した。

(城戸康秀)